IW Slovenia
報告書・日記

Date 2019/7/14 – 7/11

報告書　~今年度のプログラムに関して~

①プログラム中にかかった費用

参加費の有無	(無)	→	(0円)
オプション費	(無)	→	(0円)
航空費	(有)	→	(約12万円)

②滞在の形式(どちらかに○)

ホストファミリー・　○ホストスチューデント

・滞在先のシステムについて、感想や問題点

親切なホストでした。現地の大学生の家に泊まって寝食を共にできるのが、IWの素晴らしいシステムです。
アパートは首都のリュブリャナ中央駅ともリュブリャナ大学とも近い場所に位置していたため、待ち合わせにも便利でした。

③プログラム中の食事について

○よい・ふつう・悪い

朝食は、ホストが提供してくれました。パン・卵・チーズなどを食べていました。ヨーロッパの典型的な朝食です。
昼食と夕食は、みんなで食べていました。レストランで現地の料理を食べることが多かったです。プログラムが早々に終わった日には、ホストと2人で外食に出かけた日もあります。

④プログラムの評価できる点

1)学生の家に泊まって生活すること
2)ほぼ無料のプログラムであること
3)日本人が1人だけであるため、英語力・コミュニケーション力が要求される環境であること
4)毎日アルコールを交えてワイワイできる。海外に行くだけでなく、純粋な友達関係を築くことのできる貴重な機会である。
5)プログラム終了後も、参加者同士で連絡を取り合う仲になる

⑤プログラムの問題点

特になし。
知らない人とワイワイやることにストレスを感じる人には不向きかと思われます。

⑥主催者について

・団体名：

・参加人数

日本人	（私含め）1人
ベルギー人	2人
スウェーデン	2人
ハンガリー	2人
トルコ	1人
その他	4人

・スポンサー

なし・あり（社名）

・通信状況(返信は早いか、情報は十分だったか)

非常に早い

・主催者側の問題点

特になし

⑦派遣先の国について(事前情報やイメージと違った点)

治安	治安は良い。 夜中歩いていても安全。
物価（通貨、レート、物価の印象など)	食費に関しては日本とあまり変わらず。
生活水準	旧ユーゴスラビア圏では最も裕福な国。

⑧派遣体制について

・適切なサポートがあったか、情報は十分であったか、感想問題点等

素晴らしいサポートでした。

7月 4日　木曜日

18.30: Welcome Ceremony
21.00: Party

正直なところ、IWスロベニアに応募した時点で、私はスロベニアがどんな国なのかを理解していなかった。「せっかくだから普通なら渡航する機会のなさそうな旧ユーゴスラヴィア圏の国に行ってみたい」という動機から私はプログラムに応募した。
日本から13時間のフライトを経て私がたどり着いたのは、過去に降り立った中で最も小さな空港だった。入国ゲートを抜けると小さな売店がたった1つあるだけだった。規模としては日吉駅にすら劣るかもしれない。
何はともあれ、私は迎えに来てくれたホストの学生と会い、彼女の車で大学のキャンパスに向かった。
Welcome Partyは、大学の教室で開催された。自己紹介もそこそこに、ワインボトルを栓が開き、それから2時間も経たないうちに地元のクラブに向かった。初日から素晴らしい1日だった。

7月 5日　金曜日

10.00: Lake Bled
10.30: Boating
13.00-16.30: Lunch and free time
19.00: Cottage in Trenta
21.00: International Drinking

プログラムの前半の2日間は、コテージに泊まる内容になっていた。コテージ宿泊1日目となるこの日は、晴天に恵まれたハイキング日和だった。スロベニアは国土の2/3以上が森林で覆われており、ヨーロッパでもハイキングを目的に訪れる観光客が多いらしい。
プログラム中の移動手段は、基本的に現地メンバーの自動車だった。電車・鉄道がほとんどなく、車を使う他なかった。（現地メンバーの自動車の半数ほどがオープンカーだったことには内心面食らった。）
道中では、有名な湖「Lake Bled」にも訪れた。湖の真ん中にある小島には古城が建っており、結婚式場としても頻繁に活用されているという。手漕ぎボートが予約してあるため、1時間ほどかけて湖を遊覧することができた。

7月 6日　土曜日

10.00: Breakfast 11.00: Chill
13.00: Lunch time
14.00: Trip Trenta
18.00: International dinner preparations
20.00: International dinner

コテージ2泊目。
昼間は川や山でゆっくりするようなスケジュールで、のんびりした時間を過ごした。コテージに備わったバトミントン場を使うこともできた。
夕方からは、International Dinnerというイベントがあった。各国の料理とアルコールを振る舞うイベントだ。私は焼きそばをつくった。調理が簡単で、なおかつ、万人ウケする味だと思ったからだ。実際に、焼きそばは非常に好評だった。一応和菓子も持って行ったのだが、味の薄い和菓子よりも味の濃い焼きそばの方が人気が高いことがわかった。
もしも、IWに応募するのを考えている人がこの文章を読んでいるなら、International Dinner では濃い味の料理の準備をお勧めする。

7月 7日　日曜日

9.30: Breakfast
14.00: Lake Jasna

天気に恵まれない日だった。コテージからリュブリャナに帰る道中の湖で大半の時間を過ごすスケジュールだったようだが、雷雨に見舞われてしまった。
スロベニアは、国内を車で3時間もあれば回れると言われているため、コテージから大学までの復路は瞬く間のような旅だった。
思った以上に早く帰宅した私たちは、映画を観てから解散した。
夕飯を食べずに解散したため、私とホストは二人で地元のレストランで食事をした。

7月 8日　月曜日

9.00: Company visit
13.00: Lunch time
14.00: Ljubljana city tour
16.00: Free time
19.00: Company visit
21.00: Party

企業見学とリュブリャナの街のツアーをメインとする1日だった。企業見学は、2つの企業に訪れた。国内大手の医薬品メーカーと酒屋だ。前者は、キャリアプランや事業戦略を軸にした企業説明会のような感じだった。後者では、ヨーロッパの飲酒文化の説明・体験が主な内容だった。
リュブリャナの街のツアーは、様々な場所を回りながら現地のIWメンバーが街の歴史背景を教えてくれた。IWスロベニアはリュブリャナ大学の学生で構成されているが、ほとんどの学生がリュブリャナ以外の地域出身だったため、今回は彼ら彼女らにとってもリュブリャナについて詳しく知る機会となったようだ。
リュブリャナは1時間もあれば全てを見て回れる街だ。私がこれまで訪れた国々のどの首都よりも小さかったが、どの国にも負けない魅力を持っていた。

7月 9日　火曜日

11.00: Koper (city game)
12.00: Lunch time
14.00: Beach time
17.30: Company visit

Koperという港町で一日を過ごした。アドリア海に面した港街であり、イタリアの有名な街「トリエステ」からもそう離れていない。観光客で賑わっており、開放的な雰囲気の街だった。
Koperは漁業のみならず、ワインの製造も盛んな街だ。私たちは、ワイナリーを訪れて試飲をさせてもらった。
スロベニアは非常に高品質なワインを作るが、そのほとんどが国内消費に回っているため、国外からの認知度は低いようだ。しかし、近年では、私たちが見学したワイナリーを始め、国外輸出にも力を入れているという。特に、Koperのような港町は輸出において地の利がある。
実際に試飲してみて、非常に高品質なワインであることが伺えた。

7月 10日　木曜日

9.30: Breakfast
11.00: City Hall visit
13.00: Pizza picnic
14.00: Free time
18.00: Farewell Ceremony
21.30: Pub Crawl

午前中はリュブリャナ市長と会って、スロベニアの国会議事堂などを案内して頂いだ。日本なら小池都知事のポジションにいるであろう人間にわりと簡単に面会できるのが、IWスロベニアの凄いところだ。
夕方までは、街の中で自由行動だったため、私は特に仲の良かったハンガリー人とベルギー人とともに自然公園などを散策した。
この日が実質的な最終日となったため、Farewell CeremonyではIWスロベニアのメンバーからビール・お菓子・シャツ等たくさんのお土産などがプレゼントされた。前回、私はIWオランダに参加したがお土産は渡されなかったため、豪華なプレゼントに驚かされた。

7月 11日　金曜日

11.00: Brunch
Time to say goodbye

最終日。木曜日の深夜に帰国したメンバーもいるため、全員は集合しなかった。残っているメンバーで、リュブリャナのカフェで別れのパーティーをした。
私の出国が最も遅かったため、みんなと別れた後にホストと共にリュブリャナ城に登った。リュブリャナ城には街の散策で一度登ったが、昼と夜に見る景色は全く別のものだった。
プログラムを通じて、飲酒を欠かした日は無かった。脳細胞はいくつか死滅したかもしれないが、後悔はない。

今後の宣伝に向けて

（アピールポイント・その他感想等、次年度以降応募を迷っている人たちの背中を押す宣伝文をお願いします！）

IWは、その国の文化を深く知り、海外で友人をつくることのできる素晴らしいイベントです。
私は、大学に入ってから何度か海外に行く機会がありました。確かに、何度か行った友達との海外旅行は楽しい思い出です。しかし、「IWを通じて海外に行く」というのは普通の海外旅行とは一線を画すと私は考えています。現地の学生の家に泊まり、他に日本人のいない環境でメンバーたちと日々絆を深めていくことは、普通の旅行では絶対に体験できないものでしょう。
私の経験則ですが、「1年間なんとなく同じ教室で過ごした人間」よりも「1週間だけ寝食を共にした人間」の方がその後の人生で自分に与える影響が大きかったりします。
IWで出会った人間は、IWで完結しません。IWが終わっても親密な連絡を取り続けるかけがえのない友人関係（あるいは恋人関係）が築けます。
そして、もしもIWに興味があるなら、私は「あまり世間での認知度が高くない国」に渡航することを勧めます。今回、私はスロベニアという非常にマイナーな国で1週間を過ごしました。これは、慶應義塾大学に在籍している間にIWに応募しなかったら、この先の人生で絶対に経験しなかったことでしょう。
ぜひIWに応募してみて下さい！

ご協力ありがとうございました！
またお会いできるのを楽しみにしております。

国際関係会　海外派遣局一同